92. 漢字の変遷から観る漢人社会講座

私たちの祖先は、「漢字」を受容しました。そして漢字と仮名の混じり書きと言う、素晴らしい知的方法を発明しました。斯様な二種の文字を混じり書きする技術があった韓国は1977年、漢字使用停止を実施、貴重な文化資源＝漢字が消滅しつつあります。一方、日本と中国とで同じ漢字・語彙は大きく異なるものが少なくありません。この講座では、そのような文字を幾つか選んで考察し、日中間の社会構造・文化価値の相違を浮かび上がらせてみます。

開催日： 月曜日 時間： 14時～16時 大阪歴史博物館 定員 80名

回	月	日	テーマ	内容	講師
1	5	11	序：漢字について	日本は仮名を発明し漢字仮名交じり文という独自の表記法を築いた。これは情感や論理、日常表現に優れた技術であり、世界的にも稀有な文化的成果である。	濱島敦俊
2	5	25	漢字・漢和辞典	漢字の語義を知るために字書・辞書をひきます。その概括を致します。ついでに、「濱」と「浜」が完全な別字であり、日本人が長く誤用してきたことを述べましょう。	濱島敦俊
3	6	8	杜甫「國破山河在、(城春草木深)」①	敗戦、国民学校二年の“軍国幼年”、ショックでした。その後流行した杜甫①の詩句。幼い頭に沁み込みました。「国は負けた。しかし国土がまだある。サア、復興だ！」。	濱島敦俊
4	6	22	杜甫「(國破山河在)、城春草木深」②	一方、後半②の詩句はあまり語られなかった。「城に草木」、大方は荒城の風景を頭に描いたと思います。しかし……	濱島敦俊
5	7	13	沖縄首里城「守禮之邦」	森首相サミット。恥ずかしい！一番喜んだ人物は？89年天安門で、地に落ちた中共の権威回復…選択した道。外に敵を！愛国＝反日教育を推進した隣国」主席。	濱島敦俊
6	9	21	「士」①誕生 ②変化 『禮記』「禮不下庶人、刑不上大夫」	士、この字こそ、日中間で全く意味が違います。ただ中国(漢人世界)でも、意義が何回か大きく変化しており、それが歴史の変動と深く関連しているのです。	濱島敦俊
7	10	5	「士」③変化―「士族」＝貴族 ④変化―士・士大夫	同上。	濱島敦俊
8	10	19	「村」・「街」	この字も、大きく字義が日中で異なります。	濱島敦俊
9	11	2	「鬼」①人	これも大きくことなります。それは漢人の精神構造に深く根付いたものです。	濱島敦俊
10	11	16	「鬼」②神	同上。	濱島敦俊

2025.10.3訂正